森 公彦　氏の学位審査結果の要旨

主査：六車 恵子
副査：日下 博文、髙橋 寛二

視覚性垂直（visual vertical, VV）は、真の垂直と主観的に判断する垂直の差として計測され、脳卒中患者の感覚統合や視空間認知の評価に広く用いられる。従来、VV は測定値の平均値または偏倚と変動性により評価されてきた。脳損傷対側空間への注意や認知の障害をきたす半側空間無視（unilateral spatial neglect, USN）患者は、VV の偏倚や変動性を示すが、症例毎に変化の程度が異なる。本研究では、VV の特徴付けを目的に、偏倚と変動性の組合せによる新たな評価法を開発した。各脳卒中症例の VV の偏倚と変動性を 2 次元座標にプロットし、対照群データを用いて正常範囲を設定した。結果、ほとんどの USN 患者において VV の変動性が正常範囲を超えたが、偏倚は正常範囲内の症例と、非損傷側へ偏倚する症例が存在した。さらに USN 患者では、脳損傷側に関わらない非空間性注意障害を認め、これに損傷側対側への空間注意障害が加わり、偏倚を生じると考えられた。本研究における新分類法により、これまで見過ごされてきた USN 患者の空間性・非空間性の垂直感覚障害を初めて正確に特徴づけることができた。USN 患者の多様な VV の評価は、姿勢障害に対する個別のリハビリテーション治療戦略を構築する際に、極めて重要な情報をもたらすと考えられ、本研究成果の臨床的意義は大きいことから、学位に値すると考えられる。